

# 令和8年度特別支援学校ICT活用充実事業

## 現状・課題

### 【現状】

- ・特別支援学校教員実践事例数 (R6) 156事例
- ・教員の授業活用率 (R6) 100%
- ・幼児児童生徒授業活用率 (R6. 12) 100%
- ・高等部生徒自己端末保有率 (R6. 12) 74.7%
- ・タブレット型端末の配備 (R6. 4) 1053台 (GIGA端末)
- ・訪問教育用等セルラー16+2台
- ・Wi-Fiルーター 44台配備
- ・家庭でのインターネット環境がない (R3) 児童生徒数 180人

### 【課題】

- ①教育のデジタル化推進のため、オンライン授業、動画配信、HP上での実践事例提供等、ICTの活用が必要
- ②教員の報告事例数は増えているが、教員の力量に差があり、教員の活用技術のベースアップが必要
- ③各特別支援学校では、特別教室や体育館など、校内でWi-fiが活用できない箇所が多く、校外学習や遠隔授業等のための校外で使えるインターネット環境もない。児童生徒がICT機器を使う機会を増やすための環境整備が必要
- ④学校で授業を受けることができない児童生徒への学習保障が必要
- ⑤各学校のICT機器活用促進のため、教育課程や年間指導計画へのICT機器活用の位置づけが必要
- ⑥障がい種別に応じた各学校の課題を共有し、解決を図るネットワークづくりが必要
- ⑦タブレットを活用してより効果的に学習をすすめたり、家庭学習につなげたりするために、児童生徒の発達段階や授業内容に合わせた個別学習や協働学習に対応できる授業支援アプリの拡大が必要である。



## 【目的・活用イメージ】

日常的なICTの活用

使う児童生徒、教師が限られている



多くの幼児児童生徒、教師が活用

### 授業でICTを活用するための取組

- ・教育課程や年間指導計画へのICT機器を活用した題材の位置づけ
- ・ICT活用推進教員等研究協議会を年3回実施
- ・活用事例のデータベース化、優良事例のインターネット掲載
- ・外部講師によるICT活用推進のための各校研修会

障がい種に応じたICT機器活用の在り方を検討  
児童生徒の実態、困りに応じたICT機器活用の実践事例を共有

### 幼児児童生徒、教員が活用するための環境整備

- ・モバイルWi-Fiルーターの配置継続 (44台)
- ・必要に応じた児童生徒への授業支援アプリの拡大 (別途教育DX課にて予算措置)

### 入院や不登校の児童生徒、訪問教育やベッドサイド学習における遠隔授業の実施

- ・タブレット型端末セルラーモデル26台を活用し、遠隔授業を実施



教員全体の活用技術が向上・幼児児童生徒の生活場面でのICT活用が促進



家庭でも学習ができる・障がいによる困りも軽減・将来の生活への自立につながる

## 必要な取組